

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホーム ジョイ西里		
所在地	静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosvoCd=2294200999-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎ではありますが、反面ゆっくりした時間が流れ、自然豊かな土地で、ストレスが少ないと思います。スタッフも家庭的な雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな場所に事業所はあります。一時は利用者4名となったこともあり、また外部評価も3年空いてしまい、余裕のない状況が続いていましたが、管理者とリーダーを核に職員が心をひとつに尽力して現在は10名と増え、ほか3名も検討中という段階まで辿りついています。難儀ななかにあっても、職員も朗らかで「初詣、豆まき、ひな祭り、端午の節句、母の日、父の日、十五夜、敬老の日、ハロイン、忘年会、年越しそば」と年中行事に細目に取組み、花見やいちご狩り、動物園見学と外出行事も切れ目なく実施していることに頭が下がります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元スタッフが多く、地域とのつながりが徐々に増えています。	理念は事務所に掲示して、「地域の発展に貢献し～」については毎年地元中学校の職業体験を受入れています。今まで地域交流が希薄だったことを反省して、現在自治会長をはじめキーマンへの挨拶廻りに力を入れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の会合や、地域イベント及び地域内介護施設の運営推進会議等の出席をしています。	管理者を筆頭に職員全員地域住民であり、竹林をもつ人は筍、畑がある人は収穫した野菜、蜜柑、お茶と、地元を満喫できる食材が職員の自宅から持ち込まれ、清水森林組合から「桜まつり」に、やませみの湯(市運営の温泉施設)からは「夏まつり」に招かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の就業体験を毎年協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや自治会長等よりの意見具申等を参考にし取り入れることがあります。	現時点で2回開催と、6回はあくまでも目標としている状況です。開催回数は足りないものの、市役所、地域包括支援センター、民生委員、自治会長とともに、近隣の地域密着型デイサービスからも出席を得ており、管理者も同デイサービスの運推に出向いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村窓口とは繋がりが薄いですが、生活支援課や地域包括支援センターとは密に連絡を取っています。	地域包括ケアセンターが本年から初めて開催の地域ケア会議にも出席し、また独居老人への慰労訪問の発発式で「地域資源の紹介」として挨拶に出向いたり、ケアパス会議など、事あるごとに声をかけてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をGHとして掲げ、スタッフ共々実践しています。	本部主宰の研修会に参加した者がスタッフ会議に知識は落とし込んでいますが、構造上死角があるためユニット入口にセンサーをつけています。また蹴る、殴る、ひっかくの暴力のある利用者にとどの職員も防御はしても返さなかったことは事業所として自慢の一つです。	やむを得ず取組まなければならない際に何を留意したらいいかについての確認は未着手です。一時性、切迫性、代替性の書面を用意し、職員と知識共有をすることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議等で話し合いや、研修をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までスタッフ同士も含め出来ていなかったのので、スタッフ会議等で研修を行い、知識を深めるようにして行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね意識できている。必要に応じご家族等に通知を行っている。現在トラブルは特にはないです。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は運営推進会議だけのため、今後は季節のイベント等も通知して参加の機会を増やしていく。	「ジョイ西里だより」では、「なんとか1枚は撮りたい(笑顔を家族に届けたい)」想いが写真10枚以上となり、鮮やかなイラストも入って、楽しい暮らしぶりがよく伝わる充実した内容です。ただし、面会は少なく、運営推進会議や納涼祭への出席者もまばらです。	山間地ということもあって普通では参会が見込めないため、契約段階で出席を義務付ける必要はないか(運推や家族会等)、改めて検討することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で話し合いや上がった意見等は、随時反映していくようにしています。	スタッフ会議は時間オーバーとなるほど熱を帯びています。地域で生まれ育った者同士、仲良し意識を以てチームワークが高いとの特長がありますが、管理者からは「仕事だから、プロとして線引きはしっかりと声をかけ、油断による事故がないよう引き締めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評価表や介護技術のステップアップ試験等を取入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修機会がまだまだ少ないので、積極的に取入れをし、施設内では、一定期間スタッフにつきながら研修をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部の研修会や業者会に参加する機会を設ける。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にお試し等を提案しています。最初の1~2ヶ月間は、本人との信頼関係の構築を最優先し、積極的に声かけ等接触を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	この期間は、ご家族等にも密に連絡に心掛けて、来訪も促しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時まで何回か機会を設け、本人の希望や不安等を見極めるように、意見交換を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは最初は特に声掛けを行うように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を早く掴み取り、ご家族等と連絡を取りながら、つなげて行く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りご家族や知人等に連絡や来訪を依頼し、行きたい場所は可能なら行くようにし、イベントの参加も促す。	家族の面会は少く、親戚、知人も数名に留まっています。「本が好き」には図書館に、「動物園に行きたい」には皆で動物園へ、「黒飴食べたい」は一緒に買い物にと、声になったことは職員が工夫、尽力しています。煙草を嗜む利用者も2名います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や、利用者の趣味等を把握し、スタッフも接触機会に加わるようにする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限り相談等があれば、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り把握に努め、どうしても出来ない場合も理由をしっかりと説明するようにしています。	食欲がなくて食事を摂らない人に「パンなら食べる？(パンが好きなことを踏まえて)」と投げかける様子が目に入り、また移乗移動に「はい、ここ掴んで」「こちらに動かして」と的確な声掛けがあり、目配り、気配りのある安心対応の職員ばかりです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等を通じ、本人やご家族等から情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント等を通じ、本人やご家族等から情報把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や家族面談等を通じて。	管理者が計画作成担当者を兼務し、スタッフ会議を通じて職員から状態を聴取して把握のうえ、介護計画書を作成しています。担当者会議は「のようなもの」として、計画作成担当者と利用者本人とでおこなっています。	職員を実践者研修へだして、早期に体制を整えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や個人介護記録等を記入し、気づいた事や、改善を日々行い、連絡ノートやスタッフ会議等で周知し、活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方で独居の方も多く、以前より通院介助は実施している。それ以外は、今後検討します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり活用で出来ていない。今後は地域ケア会議等で情報収集しながら、活用したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者に合わせた対応を行っている。(通院・訪問診療)	MRIとレントゲンも装備して地元へ長く貢献している診療所が協力医として尽力くださるなか、昨年9月から月2回訪問診療のある医師との連携も始まっています。朝でて帰路は夕方になるような事案でも通院介助は事業所で支援する誠実さを誇っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェックを実施しています。あと個々での相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。定期的に近隣の病院の地域連携室等を訪問して、意見交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ナース常駐でない為、特に主治医と連絡を密に取って、対応しています。	医療的措置が必要となったり、経口摂取できなくなった時点で移設の方向で協議していて、看取りはおこなっていません。契約書に退去条件としてうたっており、家族や後見人にも了解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの設置。定期的に訓練を実施予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施の予定。その都度地域の消防団等に声を掛けていく様にして行く。	まだ本年度の防災訓練ができておらず、3月上旬に第1回目を予定しています。中州の地形のため、風水害については本部とも早めの推進をという認識となっていて、西里地域全体としての課題として取り組むこととしています。	防災計画を年間行事に位置付け、漏れないようにすることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや日常の様子に留意しながら対応しています。	職員は管理者以外の男性は2名なため同性介助は配置としてはできかねますが、現在希望する利用者はいません。フランクで家庭的な会話と、職場であるような会話でないものが紙一重な状況にある点はやや気がかりです。	リビングにあるトイレの開閉について、テーブルの配置などを職員間で話し合い、解決策が上がることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけには即時対応を旨とし、耳の不自由な方や、発生の大変な人は筆談や手振り身振りを交えて働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力個人のペースを大事に出来るよう、時間的を含め随時対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝巻きからの着替え等を通じ、1日の時間的切替を促し、男性は床屋、髭剃りを定期的に行う。女性も美容室等をお願いする。爪切りも定期的を実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	男性が多く、声かけしてもなかなか参加しないが、女性にはケーキ等を作る時に参加して頂いています。	昼食の惣菜は弁当業者から届くもの、ご飯と汁物を職員が用意しており、毎食職員も食卓を囲み談笑のある食事風景です。朝、夕職は買い出しにでかけて食材から吟味し、手作り調理は見た目も食欲をそそるものであることを写真視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日毎食後等で食事量や水分量をチェックし、飲み物の種類も記入し、個々の好み等を把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行かれない方にも声掛けをし、介助・見守りが必要な人は手助けし、ハミングット等も必要に応じ活用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立度が低い方は、チェック表で確認しながらパターンを読み取り、自立に向けた方法を考えていきます。	3箇所ある内リビングにあるトイレ1箇所が車いす対応です。排泄用品は本人の状態だけでなく羞恥心に配慮しての選択を旨とし、食事でも車いすからの移乗が見られ、手引き歩行も慣行し、自立への取組みが視えます。リハパンの5名も尿意があり、自身でトイレに向かっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っています。排泄表を活用し必要に応じ主治医とも連携しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を基本としていますが、希望があれば出来るだけ応じるようにしています。現在人員の事がり、午後の2時～4時での実施となっていますが、今後は時間を含め考えて生きたいと思っています。	週2、3回をめやすとしていますが、入ったことを忘れてしまう人には納得してもらうためにも週4、5回となることもあります。浴剤の備えはあり、かけ流しのため希望者には入浴の順番を最期にしています。開設6年とは思えないほど、垢やカビが一切なく掃除が行き届いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っています。昼夜逆転に気をつけ、昼間運動やレクを取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ会議や薬剤情報を共有全てのスタッフが理解するまで継続しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを活用したり、日々の会話の中で把握に努め、何が出来るかを考慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の行事を企画し、最近では初詣やこれからは花見等で月1回を目標に外出の機会を設ける予定です。又、買物同行も希望に応じ実施しています。	過去の実績を通じて初詣、花見、いちご狩り、七夕まつり、もみじ狩りなど、恒例となる外出行事が繰り返されています。買い出しが週4～5回あり、順次同伴してのミニドライブが叶っていて、お寿司や飴と好みのものを買うのを楽しみとしている人もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については入居時に本人の状況やご家族に相談し決めています。ただ以前妄想の方で問題があり、今は施設での管理をお願いする事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等より電話があったときは出してもらい、掛けても言い方は支援しています。手紙は希望の方は用意して支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや光量等については季節等に配慮を心がけています。必要に応じ交換もします。	デッキベランダに続くリビングは掃出しの大きな窓から陽の光が注ぎ、山間の清浄な風景が目に入り、落ち着く空間です。法人本部からの指示で、感染症対策として20台近くの加湿器が備わり、各居室にも貸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っています。席の配置も都度変更しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力今までの居室の感じを出せるようにしています。危険物等は回収しています。	エアコン、カーテンのみの設置のため、自由に持ち込めるスペースがあります。ただし置かれているのはチェストやテレビなどで大きなものは特段なく、また小物も見られず、その人らしさはあまり感じられない居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、トイレや浴室に手すり等を設置し、自立及び安全が確保できる作りになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホーム ジョイ西里(なのはなユニット)		
所在地	静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosvoCd=2294200999-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎ではありますが、反面ゆっくりした時間が流れ、自然豊かな土地で、ストレスが少ないと思います。スタッフも家庭的な雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな場所に事業所はあります。一時は利用者4名となったこともあり、また外部評価も3年空いてしまい、余裕のない状況が続いていましたが、管理者とリーダーを核に職員が心をひとつに尽力して現在は10名と増え、ほか3名も検討中という段階まで辿りついています。難儀ななかにあっても、職員も朗らかで「初詣、豆まき、ひな祭り、端午の節句、母の日、父の日、十五夜、敬老の日、ハロウィン、忘年会、年越しそば」と年中行事に細目に取り組み、花見やいちご狩り、動物園見学と外出行事も切れ目なく実施していることに頭が下がります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元スタッフが多く、地域とのつながりが徐々に増えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合や、地域イベント及び地域内介護施設の運営推進会議等の出席をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の就業体験を毎年協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや自治会長等よりの意見具申等を参考にし取り入れることがあります。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村窓口とは繋がりが薄いですが、生活支援課や地域包括支援センターとは密に連絡を取っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をGHとして掲げ、スタッフ共々実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議等で話し合いや、研修をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までスタッフ同士も含め出来ていなかったのので、スタッフ会議等で研修を行い、知識を深めるようにして行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね意識できている。必要に応じご家族等に通知を行っている。現在トラブルは特にはないです。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は運営推進会議だけのため、今後は季節のイベント等も通知して参加の機会を増やしていく。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で話し合いや上がった意見等は、随時反映していくようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評価表や介護技術のステップアップ試験等を取入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修機会がまだまだ少ないので、積極的に取入れをし、施設内では、一定期間スタッフにつきながら研修をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や外部の研修会や業者会に参加する機会を設ける。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にお試し等を提案しています。最初の1～2ヶ月間は、本人との信頼関係の構築を最優先し、積極的に声かけ等接触を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	この期間は、ご家族等にも密に連絡に心掛けて、来訪も促しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時まで何回か機会を設け、本人の希望や不安等を見極めるように、意見交換を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは最初は特に声掛けを行うように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を早く掴み取り、ご家族等と連絡を取りながら、つなげて行く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りご家族や知人等に連絡や来訪を依頼し、行きたい場所は可能なら行くようにし、イベントの参加も促す。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や、利用者の趣味等を把握し、スタッフも接触機会に加わるようにする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限り相談等があれば、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り把握に努め、どうしても出来ない場合も理由をしっかりと説明するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等を通じ、本人やご家族等から情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント等を通じ、本人やご家族等から情報把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や家族面談等を通じて。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や個人介護記録等を記入し、気づいた事や、改善を日々行い、連絡ノートやスタッフ会議等で周知し、活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方で独居の方も多く、以前より通院介助は実施している。それ以外は、今後検討します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり活用で出来ていない。今後は地域ケア会議等で情報収集しながら、活用したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者に合わせた対応を行っている。(通院・訪問診療)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェックを実施しています。あと個々での相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。定期的に近隣の病院の地域連携室等を訪問して、意見交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行っています。ナース常駐でない為、特に主治医と連絡を密に取って、対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの設置。定期的に訓練を実施予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施。その都度地元の消防団等に声を掛けていく様に行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや日常の様子に留意しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかげには即時対応を旨とし、耳の不自由な方や、発生の大変な人は筆談や手振り身振りを交えて働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力個人のペースを大事に出来るよう、時間的を含め随時対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝巻きからの着替え等を通じ、1日の時間的切替を促し、男性は床屋、髭剃りを定期的に行う。女性も美容室等をお願いする。爪切りも定期的の実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	男性が多く、声かけしてもなかなか参加しないが、女性にはケーキ等を作る時に参加して頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日毎食後等で食事量や水分量をチェックし、飲み物の種類も記入し、個々の好み等を把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行かれない方にも声掛けをし、介助・見守りが必要な人は手助けし、ハミングット等も必要に応じ活用しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立度が低い方は、チェック表で確認しながらパターンを読み取り、自立に向けた方法を考えていきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っています。排泄表を活用し必要に応じ主治医とも連携しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を基本としていますが、希望があれば出来るだけ応じるようにしています。現在人員の事があり、午後の2時～4時での実施となっておりますが、今後は時間を含め考えて生きたいと思っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っています。昼夜逆転に気をつけ、昼間運動やレクを取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ会議や薬剤情報を共有全てのスタッフが理解するまで継続しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを活用したり、日々の会話の中で把握に努め、何が出来るかを考慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事を企画し、最近では初詣やこれからは花見等で月1回を目標に外出の機会を設ける予定です。又、買物同行も希望に応じ実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については入居時に本人の状況やご家族に相談し決めています。ただ以前妄想の方で問題があり、今は施設での管理をお願いする事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等より電話があったときは出してもらい、掛けても言い方は支援しています。手紙は希望の方は用意して支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや光量等については季節等に配慮を心がけています。必要に応じ交換もします。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っています。席の配置も都度変更しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力今までの居室の感じを出せるようにしています。危険物等は回収しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、トイレや浴室に手すり等を設置し、自立及び安全が確保できる作りになっています。		